

《企業紹介》

同社は売上高でインド2位の大手IT（情報通信技術）企業である。金融機関向けの「Finacle(フィナクル)」やクラウドベースのIT戦略をサポートする「Cobalt(コバルト)」といったパッケージソフトウェアを軸にITコンサルティングサービスやソフトウェア開発サービスを提供している。

同社の顧客は欧米先進国の企業が中心で、2021年3月期売上高の地域別構成比は米国61.5%、欧州24.1%、インド2.6%と先進国地域が中心となっている。最先端の技術水準を背景に欧米先進国の顧客に対して高い顧客満足度を提供し、安定した関係を構築している。また、その業務の多くをコスト競争力のあるインド国内の技術者やスタッフで対応することによって安定した業績の成長を達成している。2009年3月期から2021年3月期の年平均成長率は売上高が13.6%、税引後利益が10.2%となっている。

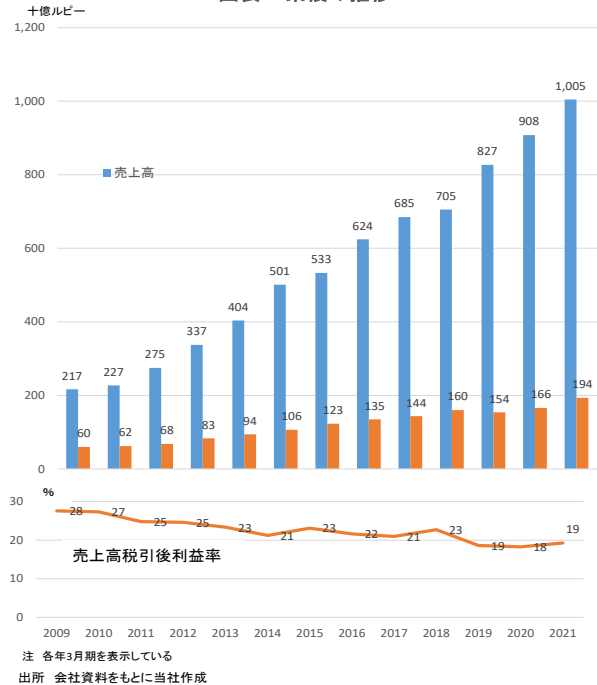
売上高税引後利益率が低下傾向にあるが、これは競争激化や従業員の技術水準向上のための教育投資費用の増加が影響しているようだ。但し、その水準は20%程度の高い水準を確保しているうえ、その低下ペースも2019年3月期以降は緩やかになっている。

《2021年7-9月期の業績》

2021年7-9月期の売上高が前年同期比20.5%増の2,960億INR（インドルピー）だった。2021年4-6月期に続いて2009年3月期から2021年3月期の年平均成長率を上回る高い伸びだった。欧米を中心にIT関連投資が回復したことに加えてパッケージソフト「Cobalt(コバルト)」が

電子商取引向けに好調だったことが貢献したようだ。一方、税引後利益は同11.9%増の542億INRだった。売上高の増加率を下回っているが、これは粗利益率が前年同期に比べて2.7ポイント低下したことが影響している。売上高税引後利益率は18.3%で2019年3月期以降の水準を確保している。

図表1 業績の推移



図表2 四半期業績の推移 (単位 百万INR)

	2020年	2020年	2020年	2021年	2021年4-6月期		2021年7-9月期	
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)
売上高	236,650	245,700	259,270	263,110	278,960	17.9	296,020	20.5
粗利益	79,620	87,990	91,500	91,470	93,900	17.9	97,960	11.3
(粗利益率)	33.6	35.8	35.3	34.8	33.7	+0.0%p	33.1	-2.7%p
営業費用	25,970	25,710	25,610	27,070	27,870	7.3	282,400	998.4
(うち販売費)	11,460	11,360	11,450	12,000	12,480	8.9	12,350	8.7
(うち一般管理費)	14,510	14,350	14,160	15,070	15,390	6.1	15,890	10.7
営業利益	53,650	62,280	65,890	64,400	66,030	23.1	69,720	11.9
税引前利益	57,920	67,500	71,510	69,350	71,760	23.9	74,480	10.3
税引後利益	42,330	48,450	51,970	50,760	51,950	22.7	54,210	11.9
(税引後利益率)	17.9	19.7	20.0	19.3	18.6	+0.0%p	18.3	-1.4%p

出所 会社資料をもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20211227

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。

インフォシス(INFY)



《株価の推移》

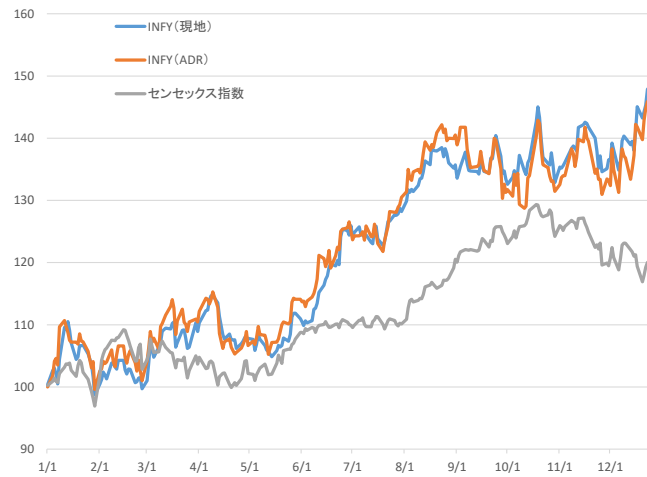
インド政府の規制によって日本人投資家がインドの株式市場に上場する銘柄を自由に売買することはできないが、ニューヨーク証券取引所にADRとして上場している銘柄を売買することは可能だ。

同社のインド株式市場の株価、ニューヨークのADRの株価、インドの代表的な株価指数であるセンセックス指数(ボンベイ証券取引所に上場する銘柄の中から流動性などにに基づき選定された30銘柄で構成される時価総額加重平均型の株価指数)について、2020年末終値を100としてそれぞれを指数化したものが図表3である。

日付をインド株式市場の取引日に合わせていることやインドルピーのアメリカドルに対する変動が影響し、同社の株価はインド株式市場とADRとの間で若干の差異がみられるものの、2020年末から足元までの推移はほぼ連動している。即ち、為替リスクを除いて考えればインド株式市場への投資とほぼ同等のリターンを得ることが可能といえよう。

同社はセンセックス指数の採用銘柄であるが、2020年末からのパフォーマンスはセンセックス指数を上回っている。10月下旬以降、センセックス指数が下落傾向にあるが、同社の株価は比較的大きな変動を伴いながら横ばい圏で推移している。欧米を中心にIT投資が拡大基調にあることがアウトパフォームの背景にあるようだ。今後もインド国内のコスト競争力のある人的資源を強みとして世界のIT関連事業のサプライチェーンに食い込み、世界のIT投資の成長を着実に取り込んで業績拡大を続ける可能性がある。一方、インド国内のライバル企業との競争は今後一段と厳しくなって利益率の低下につながるリスクがある点には留意が必要だ。

図表3 株価の推移



注 価格はインド株式市場の取引日を基準とし、当該日がニューヨーク証券取引所の休日にあたる場合は前日終値を採用している

出所 各種データをもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20211227

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。